



2024年3月期 第2四半期 決算概要

2023年11月8日

カシオ計算機株式会社

目次

I. 2024年3月期 第2四半期 決算概要

II. 2024年3月期 業績予想

補足資料

I. 2024年3月期 第2四半期 決算概要

全社連結実績

単位:億円

	第2四半期(7月~9月)		
	2022年度実績	2023年度実績	前年比
売上高	720	709	98%
営業利益	52	39	73%
営業利益率	7.3%	5.4%	
経常利益	59	45	76%
当期純利益	41	38	93%
1株利益(円)	17.04	16.31	

平均為替 レート (円)	米ドル	138.4	144.6
	ユーロ	139.3	157.3
	人民元	20.2	19.9

セグメント別実績

単位:億円

		第2四半期(7月~9月)		
		2022年度実績	2023年度実績	前年比
時計	売上高	430	433	101%
	営業利益	72	51	-21
	営業利益率	16.8%	11.7%	
コンシューマ	売上高	229	230	100%
	営業利益	9	9	-0
	営業利益率	3.9%	3.8%	
システム	売上高	48	32	67%
	営業利益	-8	-5	2
	営業利益率	-	-	
その他	売上高	14	13	97%
	営業利益	1	0	-0
	営業利益率	6.2%	3.6%	
調整額	営業利益	-22	-16	6
合計	売上高	720	709	98%
	営業利益	52	39	-14
	営業利益率	7.3%	5.4%	

全社連結実績

単位:億円

	上期(4月~9月)		
	2022年度実績	2023年度実績	前年比
売上高	1,333	1,335	100%
営業利益	101	82	81%
営業利益率	7.6%	6.1%	
経常利益	116	105	91%
当期純利益	83	73	88%
1株利益(円)	34.64	30.79	

平均為替 レート (円)	米ドル	134.0	141.0
	ユーロ	138.7	153.4
	人民元	19.9	19.8

セグメント別実績

単位:億円

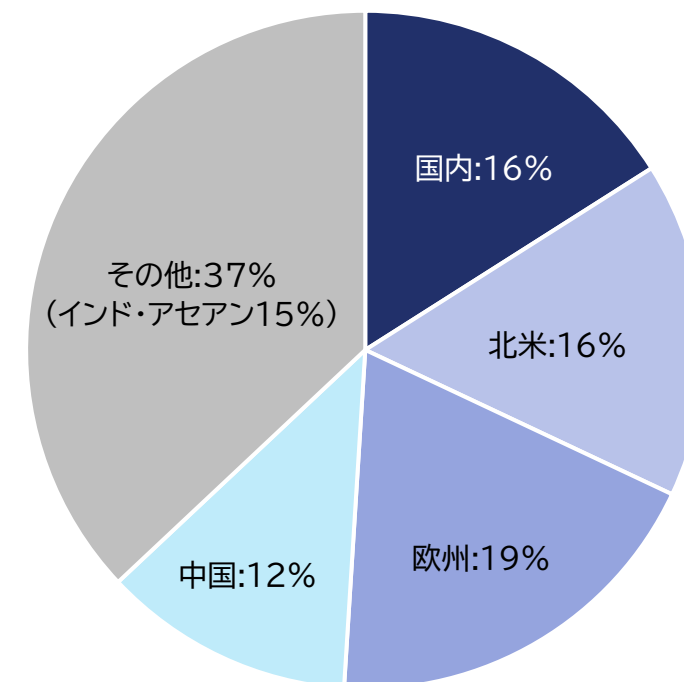
		上期(4月~9月)		
		2022年度実績	2023年度実績	前年比
時計	売上高	798	818	103%
	営業利益	128	107	-21
	営業利益率	16.0%	13.1%	
コンシューマ	売上高	435	438	101%
	営業利益	27	19	-9
	営業利益率	6.3%	4.2%	
システム	売上高	75	54	73%
	営業利益	-16	-14	2
	営業利益率	-	-	
その他	売上高	26	26	100%
	営業利益	2	1	-1
	営業利益率	7.4%	5.3%	
調整額	営業利益	-41	-31	9
合計	売上高	1,333	1,335	100%
	営業利益	101	82	-19
	営業利益率	7.6%	6.1%	

単位:億円

	第2四半期(7月~9月)		上期		上期 (期初計画)
	前期	今期	前期	今期	
売上高	430	433	798	818	760
営業利益	72	51	128	107	95
営業利益率	16.8%	11.7%	16.0%	13.1%	12.5%

- 売上については地域ごとにばらつきはあるも期初計画を上回る実績
- G-SHOCKは販売個数が減少も単価の上昇は継続

地域別売上高



※第2四半期実績(7月~9月)

G-SHOCK比率 (BABY-G含) 約55%(メタル約15%・プラスチック約40%)

G-SHOCK売上個数 約220万個 (内BABY-G 約20万個) ※前期2Q約240万個(内BABY-G 約30万個)

G-SHOCK(メタル・MR-G・MT-G)

- “G-SHOCK”40周年と“FROGMAN(フロッグマン)”30周年限定モデル『MRG-BF1000E』が人気
- 初代モデルのスクエアデザインそのままにフルメタル化した『GMW-B5000D』の好調継続



G-SHOCK
『MRG-BF1000E』



G-SHOCK
『GMW-B5000D』

G-SHOCK(スポーツ)

- ランニング向け『GBD-200』、角型デザイン『DW-H5600』、マルチスポーツ対応の『GBD-H2000』等、軽量化を図ったスポーツラインの「G-SQUAD」がグローバルで堅調



G-SHOCK
『GBD-200』



G-SHOCK
『DW-H5600』



G-SHOCK
『GBD-H2000』

G-SHOCK(プラスチック)

- 欧州を筆頭に『GA-2100』、『GA-B2100』など八角形フォルムの2100シリーズのバリエーション展開が好調に推移
- 薄型化で装着性を高めたマッドマン新モデル『GW-9500』が人気



G-SHOCK
『GA-2100』



G-SHOCK
『GW-9500』

その他

- ホンダ車用のアフターパーツの製造販売やレーシング用エンジンの開発製造を行う「無限」とコラボしたEDIFICE『ECB-40MU』が人気
- CASIOブランド(ヴィンテージ・メタルアナログ)が欧米で好調継続



EDIFICE
『ECB-40MU』



ヴィンテージシリーズ
『A100』

前年同期比(現地通貨ベース) 全体:-3%

国内:-3%

- インバウンド需要の回復が継続
- 都市部以外は軟調に推移

北米:+1%

- インフレ影響、リアル店舗数の減少の影響が続く
- EC直販モデルの投入等、EC強化を継続して取り組み

欧州:+7%

- いずれの国においても堅調さが持続
- CASIOブランド(ヴィンテージ・メタルアナログ)も好調

中国:-31%

- 前期のロックダウン後の消費の盛り上がりとの対比で減収。1Q対比は横ばいで推移
- 消費動向の変化を引き続き注視
- 1Qに続き、在庫の適正化が進展

その他:+4%

- アセアンの一部の国においてインフレ影響もあり、G-SHOCKの普及価格帯の販売個数が低下
- インドは好調に推移

※中国とその他で商流変更に伴う影響を前年同期比で調整

地域別構成比(円ベース)	国内16%・北米16%・欧州19%・中国12%・その他37% (インド・アセアン 15%)
EC販売比率	全体 20%台・国内 30%台・北米 30%台・欧州 約30%・中国 約50%
自社EC販売	前年同期比 国内1.0倍・北米1.2倍・欧州1.3倍

■EdTech(教育)

単位:億円

	第2四半期(7月~9月)		上期		上期 (期初計画)
	前期	今期	前期	今期	
売上高	161	168	311	333	300
営業利益率	9.5%	10.2%	11.4%	12.1%	10.0%

※2Q実績

売上高 : 関数・一般電卓 約88% 電子辞書他 約12%
 営業利益率 : 関数・一般電卓 約16%
 営業利益 : 電子辞書他 約-7億円

※上期実績

売上高 : 関数・一般電卓 約89% 電子辞書他 約11%
 営業利益率 : 関数・一般電卓 約19%
 営業利益 : 電子辞書他 約-15億円

- 教育現場のコロナ後の正常化に伴い、期初計画を上回り推移
- 電子辞書が低位で推移

■サウンド(楽器)

単位:億円

	第2四半期(7月~9月)		上期		上期 (期初計画)
	前期	今期	前期	今期	
売上高	68	61	124	105	115
営業利益	-6	-9	-8	-22	-15

- 巣ごもり需要の反動による影響が継続、在庫調整に時間を要する
- 欧州ではPriviaを中心に回復が見られる

単位:億円

	第2四半期(7月~9月)		上期		上期 (期初計画)
	前期	今期	前期	今期	
売上高	48	32	75	54	50
営業利益	-8	-5	-16	-14	-15

HRソリューション事業(CHS)

- 人事統合システムADPS顧客のリプレイス対応を継続

電子レジスター(SA)

- インボイス制度に向けた需要増によりBluetoothレジスターが好調

ハンディターミナル(PA)

- 収益性を考慮した受注対応を継続

小規模事業者向け経営支援事業(SMB)

- IT導入補助金の活用、インボイス制度に伴う需要対応
- 小規模事業者向け受発注システムのテスト稼働が好調にスタート

Ⅱ. 2024年3月期 業績予想

上期実績を踏まえ、23年度業績計画を上方修正

単位:億円

	上期実績	2024年 3月期 通期計画	期初予想比	2024年 3月期 期初計画
	売上高	1,335		2,750
営業利益	82	180	+20	160
営業利益率	6.1%	6.5%		6.0%
経常利益	105	200	+50	150
当期純利益	73	140	+35	105
1株利益(円)	30.79	59.84		44.62

今下期想定為替レート(円)

米ドル	145
ユーロ	153
人民元	19.8

単位:億円

		上期実績	2024年 3月期 通期計画	期初計画比	2024年 3月期 期初計画
		時計	売上高 営業利益 営業利益率		818 107 13.1%
コンシューマ	売上高 営業利益 営業利益率	438 19 4.2%	860 35 4.1%		860 35 4.1%
システム	売上高 営業利益 営業利益率	54 -14 -	120 -25 -		120 -25 -
その他	売上高 営業利益 営業利益率	26 1 5.3%	50 0 0%		50 0 0%
調整額	営業利益	-31	-65	+5	-70
合計	売上高 営業利益 営業利益率	1,335 82 6.1%	2,750 180 6.5%	+100 +20	2,650 160 6.0%

リアルマーケティングの再開

- 約3年半ぶりの新製品発表会、約4年ぶりの『SHOCK THE WORLD』のリアルイベントを開催。これまで培ったリアルマーケティング・プロモーションのノウハウを活用し、ブランド認知度向上、販売拡大へ繋げる



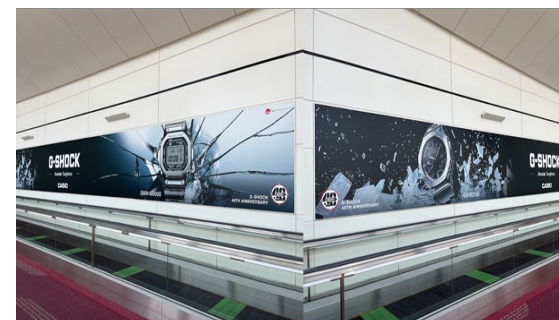
世界7都市にて
イベント開催
東京/ロンドン/ニューヨーク
ベルリン/上海/バリ/ムンバイ

- リージョナル施策として、9月16日のシンガポールからスタートし、アセアン5か国でPOPUPストアを出店。ユーザーへ直接G-SHOCKを訴求



メタルG-SHOCKの認知度向上

- グローバルで継続的に積極的な広告活動を展開。メタルのG-SHOCKの認知度の向上に向けた取り組みを継続
- 直営(オンライン/オフライン)比率向上に向け、再開したリアルイベントとも連動し、ユーザーIDの獲得とデジタル広告、SNS広告を通じた取り組みを強化



スマート機能を付加したG-SHOCK

- 運動、健康への意識が高まるなか、G-SHOCKブランドの持つ強みを生かし、スマート機能を付加したG-SQUADの拡大に向けた取り組みを継続



GBD-H2000
 ・GPS
 ・心拍計測、歩数計測、加速度センサー、ジャイロセンサー、温度・高度/気圧・方位センサー



DW-H5600
 ・心拍計測、歩数計測、加速度センサー



GBD-200
 ・歩数計測、加速度センサー

GBD-100
 ・歩数計測、加速度センサー

環境負荷の低減に貢献する商品開発

- G-SHOCKでは“タフ”をベースにバイオマスプラスチックやプラスチックレスな梱包などを採用、プラスチック使用量を抑えた「リデュース」、G-SHOCKと親和性の高い「海の保護」、耐久性を高めて長く使える「ロングライフ」、「ソーラーチャージ」をキーワードに、商品開発を継続



- ・ベゼルとバンドに、「バイオマスプラスチック」を採用
- ・原料にトウゴマ(ひまし油)やトウモロコシなどの再生可能な有機資源を使用



- ・G-SHOCKの世界観をプラスチックレスのリサイクルペーパーをパルプモールド成形した紙素材パッケージで表現
- ・外箱の印刷にはベジタブルインクを採用

バーチャルで“G-SHOCK”コミュニティを開設



耐衝撃ウォッチ“G-SHOCK”で新規ユーザーとの接点を広げるため、「VIRTUAL G-SHOCK」プロジェクトを開始し、ユーザーと交流を行うコミュニティをオープン。

コミュニティへの会員権となるNFT(非代替性トークン)「G-SHOCK CREATOR PASS(Gショック クリエイター パス)」を、Polygonチェーン※1を採用し、9月23日よりグローバルで初回1万5,000個にて無料で限定配布し、6時間で予定数を終了。

※1 NFTを配布するためのブロックチェーンの一つ

		概況
時計		<ul style="list-style-type: none"> ・中国は消費動向を注視するも、底入れをしており四半期比では堅調な推移を想定 ・注力地域であるインド・アセアンエリアは期初からマーケティングを強化しており、販売の拡大を想定 ・北米は引き続き店舗減少の影響が続く見込み
コンシューマ		<ul style="list-style-type: none"> ・堅調なEdTech事業が、楽器市場が低迷するサウンド事業をカバーし、セグメントでの計画達成を見込む
	EdTech	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ後の教育現場の正常化により、上期のBTS商戦は堅調に推移、下期のBTS商戦も堅調な推移を見込む ・電子辞書はコロナ後で、実質正常化となる国内の学販に向けて注力 ・Webアプリはアクティブラーニング機能を加えClassPad.netをバージョンアップ。期初からの新たな営業体制において、提案活動を強化
	サウンド	<ul style="list-style-type: none"> ・巣ごもり需要後の需要減速の影響を受け、在庫調整が年内は続く見込み ・高価格帯のラインアップ強化を実施予定
システム		<ul style="list-style-type: none"> ・計画線での進捗も事業構造について対応を検討
調整額		<ul style="list-style-type: none"> ・厳格な管理の上で投資を実行

補足資料

G-SHOCK 40th Anniversary SHOCK THE WORLD LIVE 2023 ~REPRESENT TOKYO~開催



2023年9月12日、G-SHOCK生誕40周年を記念したライブイベント『G-SHOCK 40th Anniversary SHOCK THE WORLD LIVE 2023 ~REPRESENT TOKYO~』を、お台場のZepp Diver City TOKYOにて開催。イベントには、応募者約8,000名の中から抽選で選ばれた2,000名とメディア関係者やインフルエンサー150名を招待し、G-SHOCKに親和性の高いカルチャーである音楽の中から、パワー溢れる“ロックミュージック”に焦点を当て、今注目のロックバンド“SUPER BEAVER(スーパービーバー)”が登場。

日本生命保険相互会社が初めて実施する 「ニッセイ・ポジティブ・インパクト・ファイナンス」契約を締結



環境負荷に配慮した当社製品の例



「カシオスーパーグリーンスター製品」
カートリッジ廃棄によるプラスチックごみを削減した
電子文具“Lateco”の詰め替え用テープ

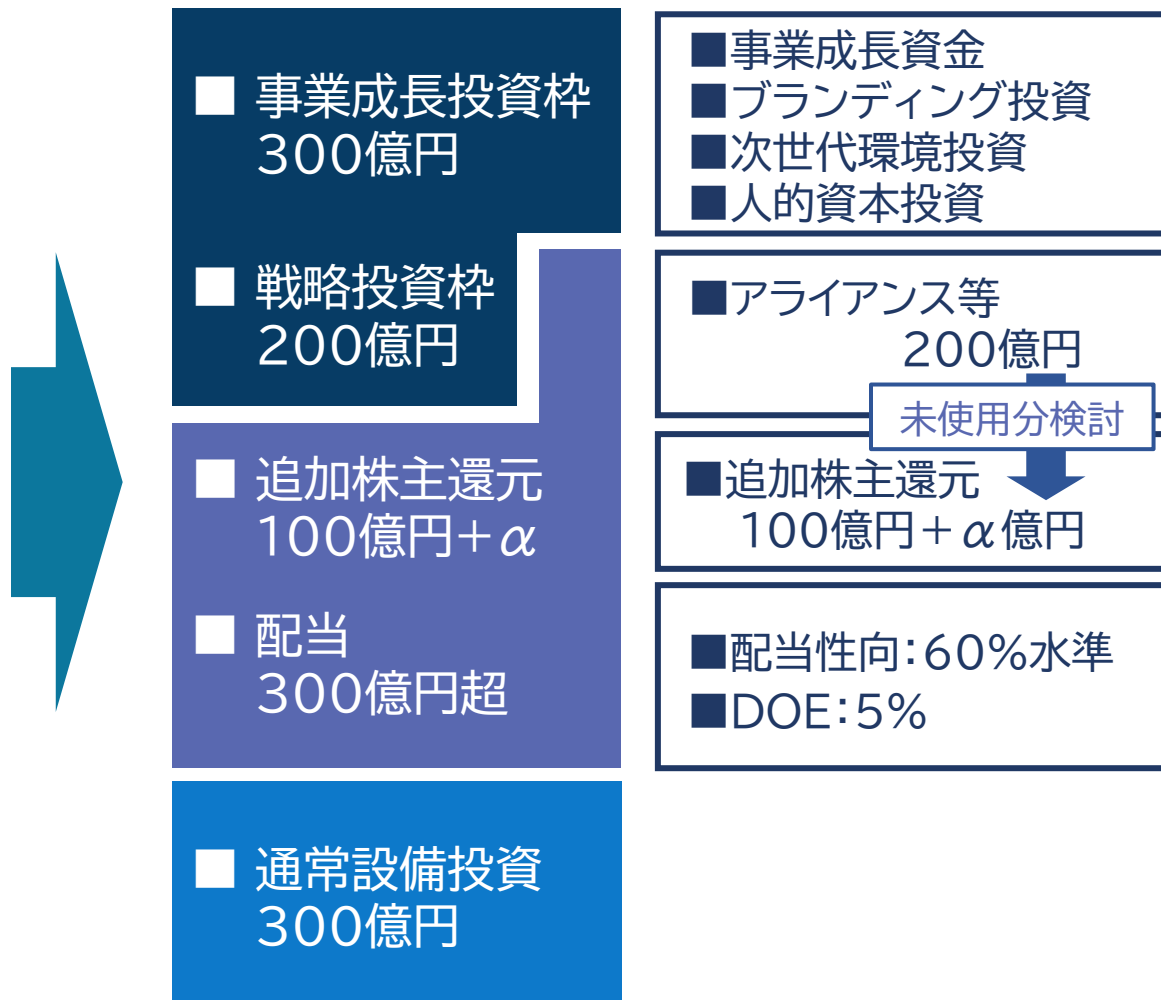
「カシオグリーンスター製品」
バイオマスプラスチックを採用した腕時計
”PRO TREK” PRG-340

日本生命保険相互会社が企業の事業活動全体がもたらす環境・社会・経済領域へのインパクトの特定・評価を行った初のファイナンス案件。
株式会社格付投資情報センターより第三者意見を取得しており、国連環境計画金融イニシアチブにより定められた「ポジティブ・インパクト金融原則」に対する適合性が確認されている。

キャッシュ配分原資 (3年累計)



キャピタルアロケーション (3年間)



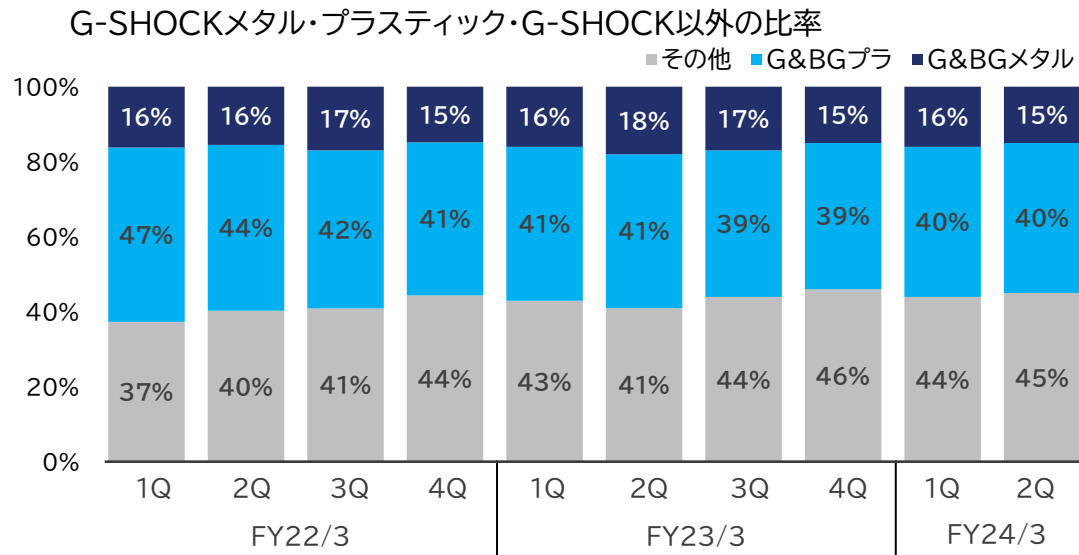
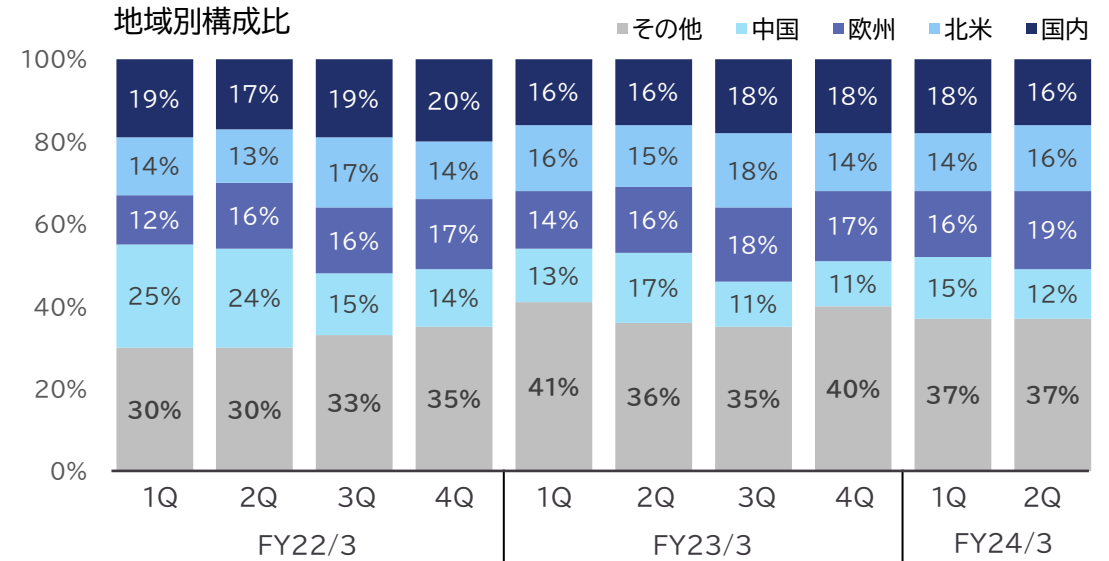
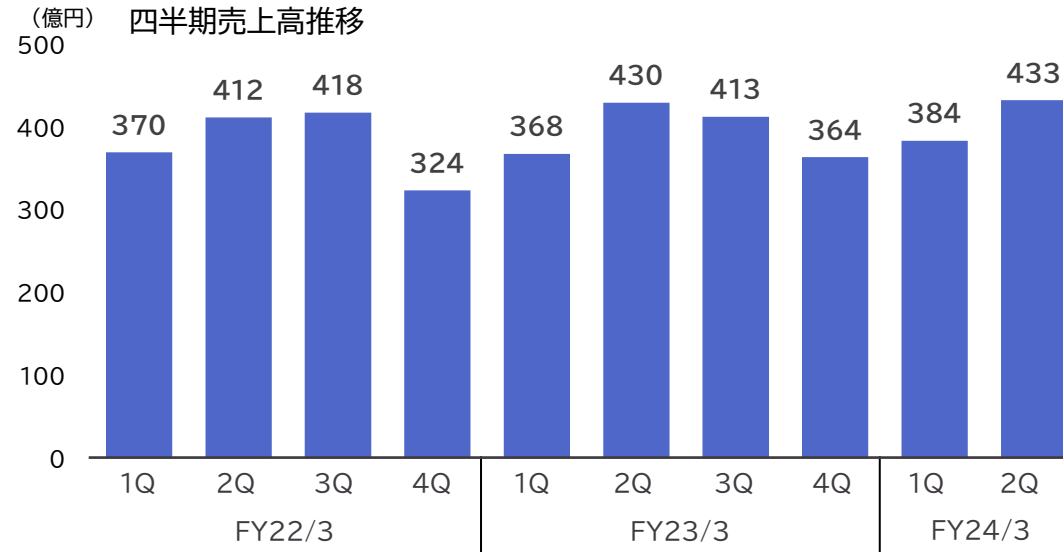
・経費処理分は純利益を構成する為、結果キャッシュとして回収、翌期以降の成長投資枠に充当

・非連続的な成長実現の為の戦略枠
・未使用枠は追加株主還元も検討

	2023年3月期 (前期)	→	2026年3月期 (3年後)	【方針】
ROE	5.9%	→	10%超	<ul style="list-style-type: none"> 資本コストを上回る資本収益性を確保 適切な戦略投資案件がない場合には、投下資本スリム化を検討
ROIC	4.7%	→	8%超	
<p>ROIC = 税引後営業利益 ÷ 期首期末平均投下資本(有利子負債+純資産)</p>				
手元流動資金	1,307億円	→	1,000億円水準	<ul style="list-style-type: none"> 財務安全性を確保した上で、手元余剰資金を有効活用
自己資本比率	66%	→	60%強	
			(今後3年間平均)	
配当性向	82.3%	→	60%水準	<ul style="list-style-type: none"> 配当方針は業績連動かつ安定配当 事業成長投資枠や戦略投資枠を手元余剰資金で賄うことで株主還元の充実を図る
DOE	4.9%	→	5%水準	
総還元性向	99.4%	→	80%~120%	

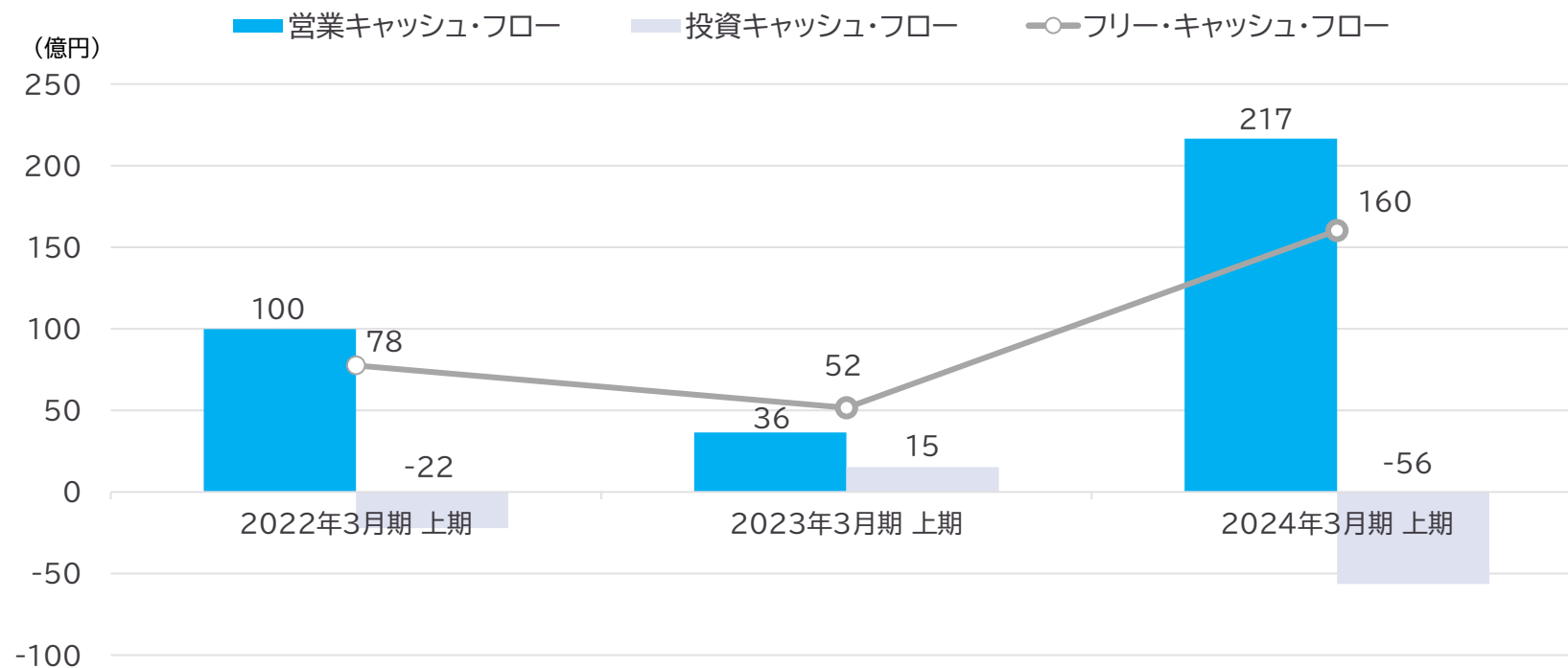
今下期想定為替レート(円)		為替感応度 1円(人民元は0.1円)の変動による影響額	
		売上高	営業利益
米ドル	145	10億円	-0.5億円
ユーロ	153	3.0億円	2.0億円
人民元	19.8	1.6億円	0.8億円

為替レート実績	第2四半期	上期
米ドル	144.6	141.0
ユーロ	157.3	153.4
人民元	19.9	19.8



単位:億円

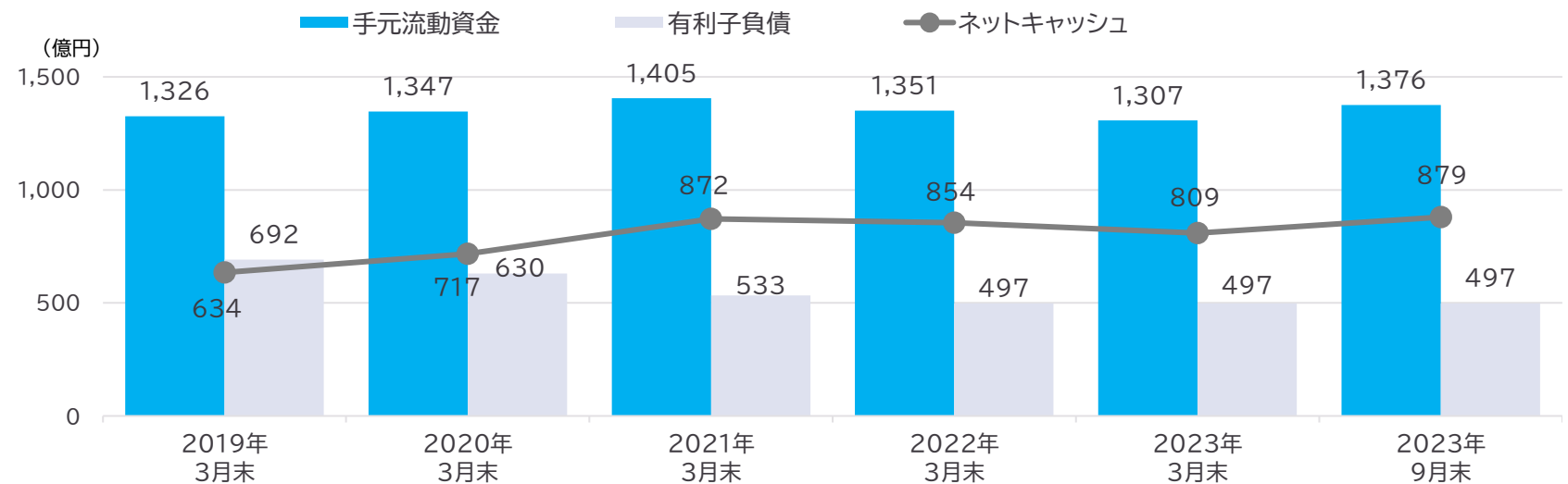
	2022年3月期 上期	2023年3月期 上期	2024年3月期 上期
営業活動によるキャッシュ・フロー	100	36	217
投資活動によるキャッシュ・フロー	-22	15	-56
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	78	52	160
財務活動によるキャッシュ・フロー	-64	-88	-156



貸借対照表

単位:億円

	2019年3月期 3月末	2020年3月期 3月末	2021年3月期 3月末	2022年3月期 3月末	2023年3月期 3月末	2023年 9月末
資産合計	3,575	3,341	3,320	3,373	3,352	3,434
負債合計	1,459	1,316	1,201	1,184	1,136	1,207
自己資本比率	59.2%	60.6%	63.8%	64.9%	66.1%	64.9%
D/Eレシオ	0.33	0.31	0.25	0.23	0.22	0.22
現預金・有価証券・現先短期貸付金	1,326	1,347	1,405	1,351	1,307	1,376
有利子負債	692	630	533	497	497	497
ネットキャッシュ	634	717	872	854	809	879



本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの業績とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

CASIO